

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570101636		
法人名	医療法人 岡田整形外科		
事業所名	グループホーム一喜一喜		
所在地	宮崎県宮崎市大字浮田3318番地		
自己評価作成日	平成24年7月18日	評価結果市町村受理日	平成24年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570101636&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570101636&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年8月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節感を大切に、旬な食材を取り入れた昼食会やその時期に咲く花を觀賞する為にドライブへ行ったりと、毎月行事を企画している。入居者のニーズに応えるために、お茶の時間に座談会を開き、『食べたいもの』『行きたいところ』『見たいもの』等、入居者の生の声を聞き、ケアに取り入れている。他にも、勤務に看護師を配置することで、医療と介護の連携を図り、また、緊急時や入居者の体調不良時に速やかに相談できるよう、体制を整えている。法人全体の取り組みの『なぜメモ』については、入居者・家族等顧客のニーズを収集したり、業務上の細かな気づきを挙げたりと、様々な場面で、情報収集のツールとして活用している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム一喜一喜の理念「地域と共に、その人らしく穏やかに、笑顔のある生活」を支えることを目標に、理事長、管理者、職員が一丸となり、日々懸命に取り組んでいる。理事長・管理者の考案した「なぜメモ」「振り返りシート」「ポジティブメモ」を十分活用しながら、管理者と職員は活発に意見を交わし、利用者の穏やかな生活を支援する努力をしている。「私たちの職場は自由に意見が言い合えること、意見を取り上げてもらえること」と、職員は生き生きと介護業務に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携やその人らしさを大切にケア等を運営理念に掲げ、それに沿ったケア目標を立て、日々ケアにあたっている。	医療と介護双方のケアを目指している法人の理念を基に、ホームでは「地域と共にその人らしく、穏やかに笑顔のある生活ができるように」の理念を別に掲げ、日々のケアにおいて、理念がぶれないよう話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけたり、近くの喫茶店へ行ったり、地域の祭りに参加したりと、入居者は地域へ出向いている。また、法人の祭りに地域の方を招いたり、ボランティアに来ていただいたりと、相互的に関わりを持っていく。	理事長が区に入会している。ホーム全体は、賛助会員として地域とつながりを持ち、祭りに参加している。また、ボランティアを受け入れたり、認知症の出前講座等を地域で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方を招いたり、キャラバンメイトのスタッフが地域に出向き、講師をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々のケアの取り組みや防災訓練、地域との関わり等について報告し、構成員より助言を頂き、ケアにつなげている。	2か月に1回開催している。行政職員・民生委員・地域の代表者・家族会・関係者で構成し、外部評価やホームの現状を報告したり、助言をもらっている。サービスの向上のため、ボランティアをお世話してもらい、外出支援を充実させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員や社会福祉協議会の職員を運営推進会議の構成員とし、会議の場で様々な意見交換をすることで、協力関係を築いている。	運営会議以外にも法改正やホームの改善等について、相談できる関係を築いている。市の担当者や地域包括支援センターからも市民講座や認知症養成講座の依頼があり、キャラバンメイト資格者を派遣している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束防止に関するマニュアルを整備し、年に1回は法人全体で内部研修を行い、全スタッフが理解を深め、ケアに取り組んでいる。日中の施錠は行わない。	身体拘束マニュアルを作成し、職員は理解している。法人でも医療、介護、拘束について研修しており、年1回、市の権利擁護と拘束講座に交代で参加し、全職員は常に学習し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回は、法人全体で虐待防止に関する内部研修を行い、全スタッフがその理念に基づき、ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については理解不足であるが、必要性に応じて活用できるよう、研修参加や勉強会を開催して、知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時・退居時は、職員が契約書と共に十分に説明を行い、利用者に対して不明な点は尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、面会時等に、直接話を聞いたり、意見箱に投書していただいたり、アンケートを実施したりして、意見をいただいている。	利用者の日常生活の表情から、嫌がることや好むことをくみ取ったり、家族の来訪時の会話を通して、家族の思いや苦情を聞きだしている。職員はいつも、「なぜメモ」を持ち、会話の中で気になる言葉をメモし、運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回行う会議に、理事長・管理者が出席し、日々の業務・運営に関する意見交換が出来る場を設けている。	理事長・管理者は、職員と会議以外にも現場の改善について話し合える「なぜメモ」を提案し、良かったこと・悪かったこと・うれしかったこと・わからないことを記録し、この記録の対応処置を敏速に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回行う会議に、理事長・管理者が参加し、実績を把握している。定期的に職員面談を行い、各職員の勤務状況や環境等把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、内部研修の場を設けており、外部研修についても費用が掛かる場合は助成しており、研修の機会は多く設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、年に数回、研修や総会に出席しており、他事業所の職員と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用されていたサービスの担当者と連携を図り、情報収集を行うと同時に、本人とのコミュニケーションを取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、職員・家族・事業所職員等とサービス担当者会議を行い、本人・家族の意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望に応じ、他事業所や他病院等といった外部との連携を図っている。他科の歯科訪問診療や精神科受診等。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩と思い、昔の話を聞いたり、料理の作り方、裁縫の仕方等を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事や昼食会に家族を招き、一緒に参加していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人内の通所リハやデイサービスを利用されていた方は、利用日だった日に訪問し、他の利用者に面会して頂いている。	関連のデイサービスや通所リハビリに地域住民や知人が利用する日に、ホームの利用者が出向いたり、ホームに立ち寄ってもらうことを大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や家事などの作業の場面では、利用者の性格や個々の相性などを見極め、互いに関わりがうまくいくよう、時には仲介し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りがほとんどではあるが、通夜や葬儀等への参列、初盆へのお参り等をさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、本人の意向や希望の確認を行い、部門会議で検討している。	日々の支えあう生活を通して、思いをくみ取り、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、同法人内の関連事業所の職員の意見も参考にし、活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族、以前利用していたサービスの事業所から聞き取り、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態について、個別記録や申し送りノートを活用し、勤務交代時の引き継ぎを行うことで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度はサービス担当者会議を行い、家族・職員・入居者の意見や要望を取り入れている。家族へは、日々の面会時に意見を尋ねている。	月1回、ケアプランの見直しをしている。作成では、担当者会議や観察記録(なぜメモ等)でアセスメントを行い、利用者、家族、看護師、担当者等の意向や観察記録を取り入れて、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なぜメモ、申し送りノートに記入し、情報の共有・ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人の状態により、病院受診や訪問看護依頼、他科受診・往診等を依頼している。買い物に行きたいときには、近くのスーパーへ行ったり、『お菓子が食べたい』と言われたら、近くのお菓子屋さんに行ったりと対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事の時に地域のボランティアに依頼したり、地域の祭りや行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が他科受診を希望される場合は、情報提供書を作成し、受診して頂いたり、必要に応じてスタッフが付き添い、情報を伝えるよう支援している。	基本的に、利用者の希望するかかりつけ医を受診している。受診時には、利用者の情報をきめ細かく提供している。医師からも医療指示が受けられる関係を築いている。家族が付き添えない場合には、必要に応じ、職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に岡田整形外科の看護師に相談し、助言をいただいている。実際に勤務に入り、入居者と関わることにより、看護の目線からケアに取り組み、入居者が適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を作成し、情報交換を行うとともに、本人の元に足を運び、状態の把握を行い、病院関係者からの情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針についての説明を行い、状態に応じて医師・家族と相談した上で、看取りの同意を取り、医療や介護の方向性を決めていく。	7例の看取りを経験している。看取りに関する指針と同意書を準備し、入居時に指針と同意書について説明をしている。ケースバイケースで医療や介護の方向性を決めている。設立当初から、ホームは、ターミナルケアをすると認識し、業務をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを完備し、防災訓練や緊急時の対応についての内部研修の実施、外部研修へ参加し、訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災、地震・津波を想定した防災避難訓練を年2回、実施している。全スタッフが参加し、訓練時には、地域住民や消防団にも参加していただいている。	自然災害と火災を想定し、年2回、防災訓練をしている。地域の消防団と近隣住民、運営推進会議のメンバー、全職員の協力で、定期的実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が自己選択できるような言葉かけを心がけている。それでも上手く声かけできない事もある為、月に1度、振り返りシートを活用し、自分自身の認知症ケアについて振り返る場を設けている。	利用者の人格を尊重し、プライドを傷つけない言葉かけをしている。職員は、振り返りシートとポジティブメモを常備し、利用者の所在確認、見守り、ケアの良し悪しを確認し合うとともに、自己評価をしながら、業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けを心がけている。自分のニーズを訴えられない方には、「はい・いいえ」で答えられるような問いかけをする等、工夫している。入居者の仕草や表情をよく観察し、何を望んでいるのかを汲み取れるよう、ケアに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や入居者の状態を考慮し、入居者がやりたい事(散歩や体操等)を尋ねて提供したり、いくつかの選択肢を挙げ、選んでいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、近隣の美容室によるカットの日があり、本人や家族の希望があれば、カットを行っている。また、毎日本人の選んだ洋服を着たり、外出時や行事等には、お化粧品をしておしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ切り込みや盛り付け、食器洗い・拭き等、得意な事をその人の意思を尊重し、手伝って頂いている。	基本的に、本院の栄養士が平均年齢に見合う献立を作成している。旬の食材や希望、差し入れ等を取り入れ、柔軟な対応をしている。利用者の力量に合わせ、調理や後片づけをしながら、利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量の状況は記録し、把握している。栄養バランスについても、基本的には栄養士による献立を参考に配慮している。食事形態は、その人の能力・機能に応じ、普通食やキザミ・ミキサー食等を工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後・就寝前に口腔ケアの声かけや介助を行っている。定期的、あるいは口腔内異常が見られた時は、歯科の訪問診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけている。 定期的なトイレ誘導・声掛けを行っている。	排せつチェック表を記録し、排せつパターンを把握している。日中は、自立支援を行いながら、自尊心を傷つけないトイレ誘導や声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的には運動と食事、水分補給による予防を行うが、必要に応じて、医師の診察の下、服薬による排便誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前から入浴を行い、気分の乗らない方には、午後から再度声かけを行い、タイミングを合わせるようにしている。	基本的に毎日入浴支援を行っているが、本人の希望やその日の体調に合わせ、清拭や腰湯等で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を考慮し、散歩などの軽い運動を行い、生活パターンを作ることで、夜間睡眠を確保できるよう配慮している。また、リビングや茶室、自分の居室で自由に過ごしてもらえるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期の診察、異常時の診察の際は職員が受診に同行し、状態と薬の情報を把握している。また、同行できない場合は、家族から申し送りを受け、その情報を全スタッフに周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを行う際、歌の得意な人、ボール遊びが得意な人等を含め、喜びや楽しみが感じられるよう、笑顔のある暮らしを提供している。また、得意な作業(洗濯物干し・たたみ、配膳、掃除等)は分担して行い、散歩や買い物等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	GH周辺や病院・隣の施設等、用事を兼ねて希望のある方などで、散歩に出かけている。外出行事では、家族や地域のボランティアの方を招き、一緒に外出している。	日常は、一人ひとりの希望に沿って、周辺の散歩やショッピングをしたり、喫茶店に出向き、お茶を楽しんでいる。また、家族やボランティアの協力をもらいながら、四季折々の花見やドライブをしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関して、基本は施設で預かっているが、家族の了承を得て、外出時や買い物時に預かり金からいくらか所持して、支払えるよう支援している。中には本人でいくらか所持している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方からの手紙や電話などは、本人の希望を確認し、出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度に光が入るような作りになっているので、カーテンで調整を行っている。 季節を飾ったり、玄関や掲示板を季節ごとの雰囲気レイアウトし、工夫している。	多目的ホールのガラス窓は大きくて明るく、自宅の延長を感じる対面式厨房と事務室から、職員に見守れながら、思い思いに過ごしている。バリアフリーのトイレや風呂場は、ゆったりしたスペースで、安全への配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、入居者同士で会話できるようにソファの位置を配慮し、また、一人になれるよう空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や写真など、好みの物を使用し、馴染みの空間づくりができるよう工夫している。	利用者の使い慣れたタンスや愛用品を持ち込んでもらい、居心地良く、安心して暮らせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ間で情報共有し、一人ひとりの力を活かし、家事作業、レクリエーション等、安全な環境で行えるよう自立支援している。また、トイレや浴室等の場所の見当がつくように、配慮している。		